



マルバヤナギ

# 見沼自然散策

2024.5.25



オオシバリ

見沼たんぼ地域ガイドクラブ

		<p>カラスムギの実には長いとげ（ノギ）がある。ノギの根元は乾燥するとねじれ、湿り気でねじれが戻る種はこの動きで自ら土に潜る</p> <p>クワの実が熟してきた。黒くなって触ると落ちるようになると甘い</p>	
		<p>←キジのの恋の季節。オスは「ケンケン」と鳴いて縄張り宣言。メスは気ままに歩いていくが、オスはついていくしかない</p> <p>→オオヨシキリも大きな声で縄張り宣言。メスが子育てしている最中も、ほかのオスに取られないよう、ひたすら鳴いている</p>	
	<p>←マルカメシはクズなどマメ科が好き。茎に口を刺し、吸い取る</p> <p>→タケウチトゲアワブキはシナノキに依存。幼虫は自分の周りに管状の殻を築き、樹液を吸って暮らす。不要な汁は管の先から出す</p>		
		<p>クモたちも春に活動開始！まだ幼体なので巣も小さい。それでも、親と同じように巣を張り、獲物を待つ</p> <p>コクサグモは水平に網を張り、落ちてくる虫を待つ</p> <p>ハエトリグモは網を張らず待ち伏せ。獲物が近くに来ると飛び移る</p>	
		<p>クサノオウには毒がある。昔はその毒成分を薬として用いていた。</p> <p>北米原産のニワゼキショウは明治に渡来。広く分布している</p> <p>甘いにおいのスイカズラは咲き始めは白で、だんだん黄色くなる。二つセットで咲くので実も二つ並ぶ</p>	
<p>クサノオウ</p>	<p>ニワゼキショウ</p>		<p>スイカズラ</p>

